集落維持

支援制度設計の状況は
庁内横断組織体制で協議中

矢野（やの） 依伸（よりのぶ） 議員

問 少子高齢化、人口減少によって集落維持の難しさが増しているため、どのような支援ができるか検討を行い制度設計に向け取組んでいくとのことであったが検討状況はどうか。

答 **佐田 総務課長**

庁内を横断するプロジェクト的な体制を視野に入れ、地区の維持、活性化に向けた総合的な検討を進めていて、各課室が持つ知見や施策を持ち寄り実情に即した支援策は何かなど、制度設計に向け具体的な事業計画協議の中で進めていくこととしている。

新米価格問題

米農家一段と離農へ進む
厳しい状況 町でも協議開始

問 今年の「JAこうち」コシヒカリ1等の価格は、概算金（前渡金）玄米30kg 7千円で前年に比べ36％少ない。高齢化や後継者不足などを契機に米農家が減少する中、元々採算性に問題があるうえに肥料や燃料等の高騰でさらに経営が悪化し、一段と離農者が増えるのではと思うがこの状況をどのように捉えるか。

答 **斉藤 農業振興課長**

米穀安定供給確保支援機構が、農水省の農産物生産費統計を基に日本の流通量の約9割を占める1ヘクタール以上3ヘクタール未満の農家データーを基準に算定した米のコスト指標は、今年4月時点で玄米60kgあたり2万535円である。概算金に追加払いがあったとしても農家には厳しい状況であると認識している。

答 **大西 町長**

米のコスト指標からして産業として維持ができないというのが現状であろうと考える。農業の中で支援・施策が届いていないところが個人水稲農家で、この点についても担当課の方で協議をスタートさせたところである。

町道維持管理

町道路面修繕取り組み状況は
現地確認し対応 新たな財源要望へ

中稲の刈り取り（馬荷）

問 町道維持管理の中でも路面修繕の対応はどのような状況か。

答 **河村 まちづくり課長**

町道は509路線、総延長約25万2600mで、定期的なパトロールによる点検や地域住民の方からの連絡で現地確認をし、軽微な場合は職員や現場作業員で補修を行っている。

また、地区要望によるものは現場確認を行い、老朽度や緊急度を加味し修繕を実施。道路の平坦性、安全性を保つために大変重要と認識している。

舗装の修繕は多額の費用を要し、町道拡幅や視距改良など新設改良事業に合わせ実施する場合を除き補助対象とならないため、新たな財源措置の検討要請を四国地方整備局に行う予定としている。

問 町道大井川馬荷線改良工事の現状と今後見通しは、また、現町道の路面修繕についてはどうか。

答 **河村 まちづくり課長**

一般的な地すべりとは破壊の仕組みが違うので対策工法は慎重に検討しなければならず、現時点での具体的完成時期は未定。また、現町道の路面状況は把握し修繕の必要性は認識している。本年度103m修繕を行ったが、継続して修繕を行っていくように考えている。